

災害時に連携 協力態勢を確認

AMDA国際会議

アジア各国の医療団体が、災害時に連携する態勢づくりを目指す「アジア相互扶助災害ネットワーク会議」写真Ⅱが12日、北区の岡山国際交流センターで始まった。18日まで。紛争地や災害被災地で



医療面での支援を行う国際医療救援団体「A

MDA」が主催し、韓国やインドネシア、アフガニスタンなどアジア13カ国の医師会や非営利組織が参加。互いの国で災害が起きた時に連携し、支援を充実させる方法を探る。

会議で、AMDAの菅波茂代表が「相互に学び合い、世界平和のためにネットワークを大きく広げたい」とあ

いさつ。その後、参加者が、自国の災害医療や公衆衛生の状況について発表した。

AMDAによると、13カ国が一堂に会して協力態勢を確認し合うのは初めて。13日には参加団体が「アジア相互扶助災害医療ネットワーク設立宣言」に調印する予定。